

ちやうしやうじじやうあと

# 長松寺城跡

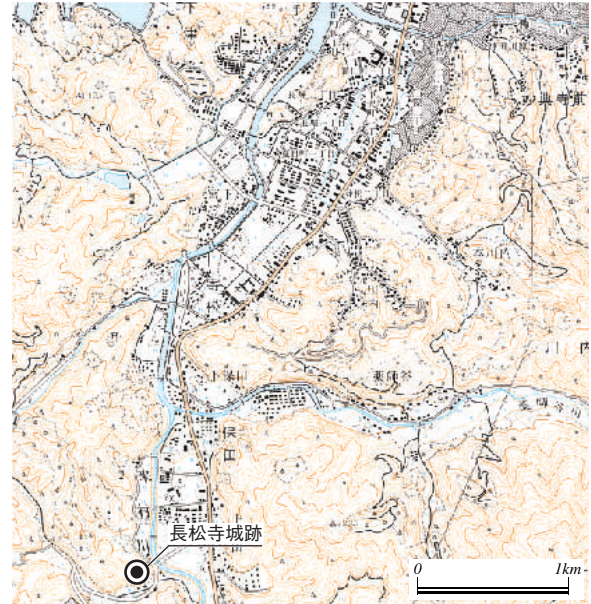
— 中世の城郭跡 —

## 調査の概要

事業名 平成17年度大洲管内埋蔵文化財発掘調査  
調査委託者 国土交通省四国地方整備局  
調査受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター  
遺跡名 長松寺城跡  
場所 宇和島市保田  
調査面積 3,700m<sup>2</sup>  
調査期間 平成17年8月24日～平成18年2月17日

一般国道56号宇和島道路の建設に先立ち、当センターでは、宇和島市保田に所在する長松寺城跡の発掘調査を行いました。

調査の結果、郭と考えられる平坦面や土塁、堀切といった15世紀代の城郭遺構を確認しました。また中世の遺物のほかに弥生時代の遺物なども出土しています。



上空からみた長松寺城

## 遺構と遺物

### 発見された遺構

郭3、土塁1、堀切2、柱穴列2、柱穴26、テラス状遺構1

### 出土した遺物 (出土総数約1,500点)

#### 1 弥生時代の遺物

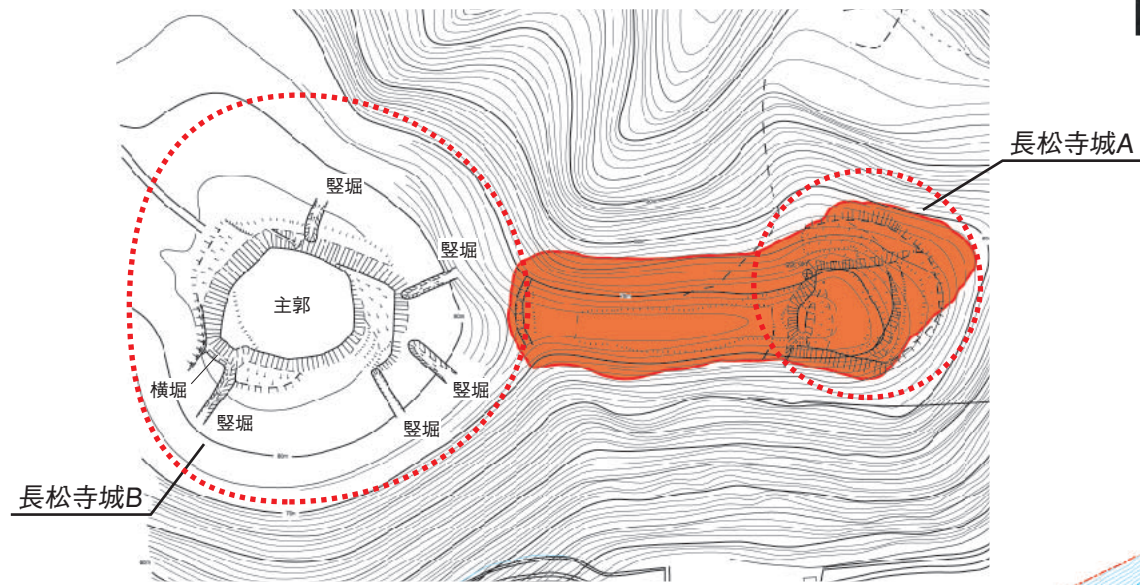
弥生土器(壺・甕・高杯)、磨製石斧、嘴状石器、剥片

#### 2 15世紀の遺物

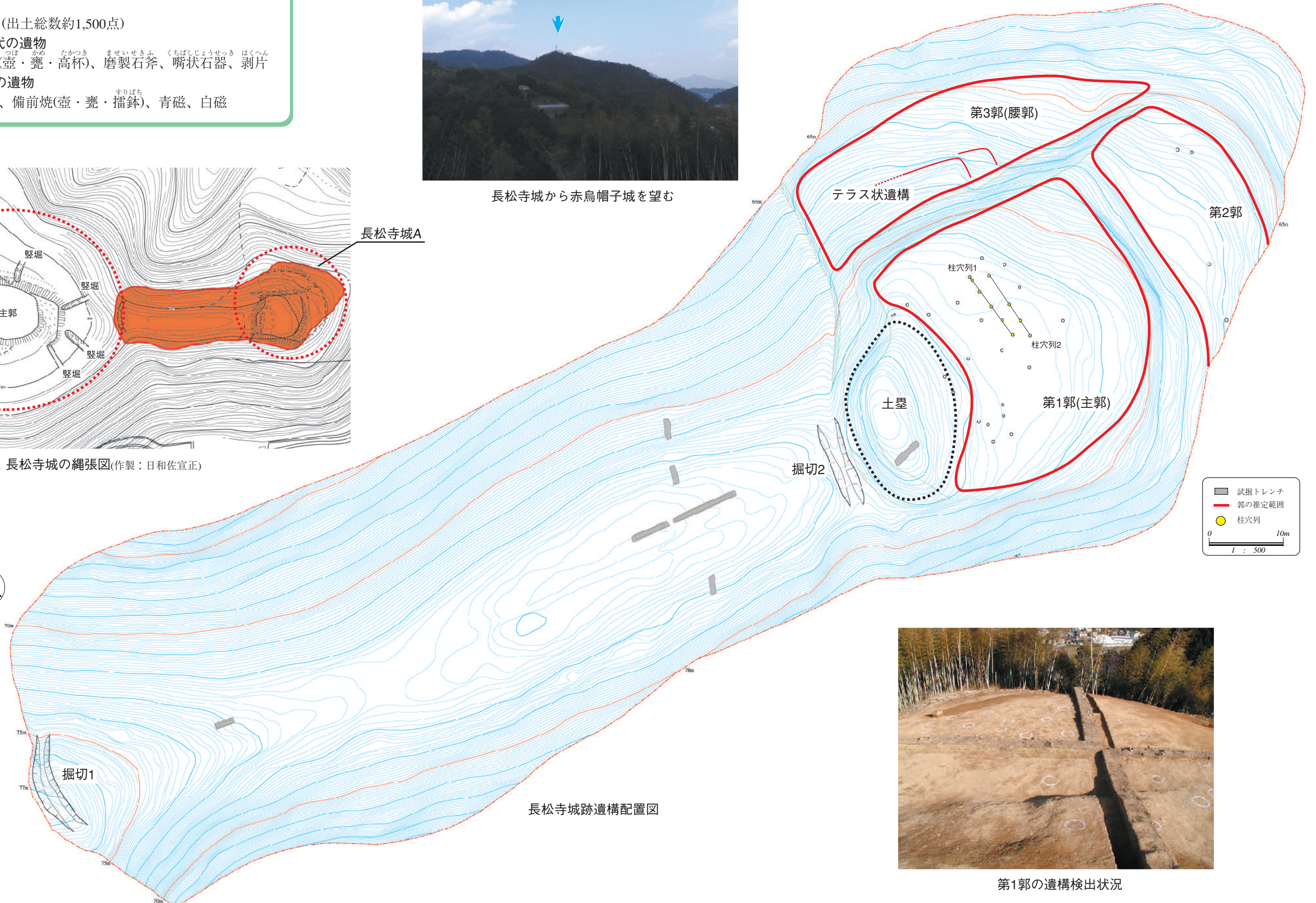
土師器杯、備前焼(壺・甕・播鉢)、青磁、白磁



長松寺城から赤烏帽子城を望む



長松寺城の縄張図(作製：日和佐宣正)



長松寺城跡遺構配置図



第1郭の遺構検出状況



掘切1完掘状況



土塁の検出状況

## まとめ

今回の発掘調査では、過去に行われた分布調査で、その存在が知られていた長松寺城(長松寺城B)に隣接する城郭跡(長松寺城A)の調査を行い、その構造や時期が明らかになりました。

遺構では郭が3面確認され、土塁を伴った主郭と腰郭から構成されていたことが明らかとなりました。また、郭からは柱穴列やテラス状の遺構なども確認されています。遺物は主郭やその周囲から、土師器杯や備前焼のほか、青磁や白磁といった中国製の磁器などが出土しています。これらの遺物の時期から、長松寺城Aは15世紀頃の城郭で、16世紀後半頃に造られたと考えられる長松寺城Bとの間には100年程度の時間差があることがわかりました。長松寺城Bは、赤烏帽子城を本城とした友岡慶則の支城で、天正年間に土佐の長宗我部氏に攻め落とされた、との記録が文献(『宇和旧記』)にあるように、本格的な戦争に耐えうる防御施設を備えたつくりになっています。これに対し、長松寺城Aは応仁の乱(1467～1477年)以降に造られた戦国時代初期の山城で、地域の小規模な戦闘の際の逃げ城であったと考えられます。

長松寺城AとBの関係については、次の2つの可能性が考えられます。

- ①長松寺城Aが15世紀頃に造られて長松寺城Aが使われなくなったのち、16世紀に長松寺城Bが築城された。
- ②長松寺城AとBの一部が15世紀頃につくられ、長松寺城Bについては16世紀になって塹堀や横堀を備えた防御機能の高い城に造り替えられた。

当時の城造りの一般的なあり方からすると②の可能性の方が高いと考えられますが、真相は長松寺城Bの調査を行わないと何とも言えません。

今回の調査は旧宇和島市で初めての中世城郭の発掘調査で、当時の宇和島の政治情勢や社会の様子を知る貴重な資料と考えられます。



周辺の主な城郭跡

旧宇和島市域

Memo